

# 白内障

## はじめに

白内障の初期混濁は50歳代から発現し始め、中等度以上に進行した白内障は70歳代で80%以上、80歳以上ではほぼ100%にみられます。今回は手術をされている方も多し、加齢白内障について解説します。



## 原因

水晶体はレンズの役目をしていますが、この水晶体が混濁した状態を白内障といいます。

白内障の原因には先天性と後天性があり、後天性が多いのですが、その中で最も多いものが加齢によるものです。また、喫煙、紫外線暴露、放射線暴露も白内障を進行させる要因になると、報告されています。



## 症状

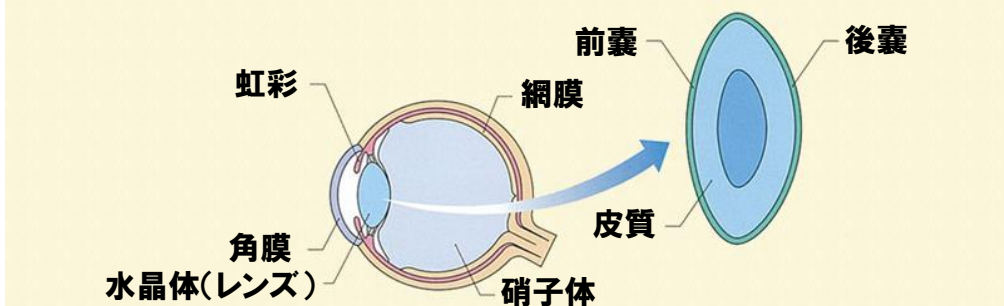
白内障の初期には自覚症状はありません。進行すると、水晶体の濁りによって光が散乱し、物がかすんで見えたり、ぼやけたり、晴れた日の屋外がとてもまぶしく感じたり、車の対向車のライトがまぶしく感じたりします。さらに進行すると、瞳の黒い部分が白くなるので、昔は“白ぞこひ”と言っていました。



## 種類

皮質白内障、核白内障と後囊下白内障の3種があります。

皮質白内障	加齢白内障の中で最も多いタイプです。
核白内障	最も早くに手術が必要となるタイプです。
後囊下白内障	発症頻度は低いけれど、重篤化しやすいタイプです。



## 治療

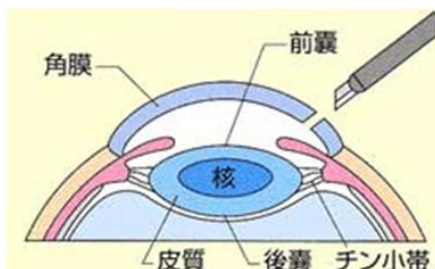
内障の早期には、進行予防のための点眼薬として、ピレノキシン点眼薬（商品名：カリーユニ、カタリンK）、グルタチオン点眼薬（商品名：タチオン）が使われます。

しかし、これらの点眼薬には、一度進行してしまった白内障を透明にする効果はありません。よって、現在の白内障に対する主な治療は手術です。白内障の手術は主に、超音波水晶体乳化吸引術という、濁った水晶体を超音波で砕いて取り出し、眼内レンズを入れるという方法で行われます。

手術で交換する人工レンズは、人の水晶体と違って、遠近でレンズの厚さを調節することができません。固定の焦点になるので、必ずしもすべてが良く見えるようにはならないので、その点を留意してください。



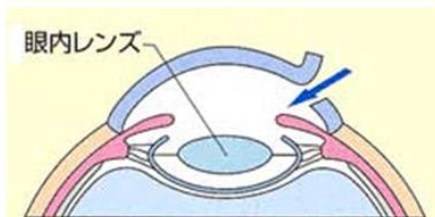
### ■超音波水晶体乳化吸引術



眼球を切開し、水晶体の前囊を切り取る。



水晶体の核と皮質を超音波で砕き、吸引して取り出す。後囊とチン小帯は残す。



残った後囊の中に、眼内レンズを挿入する。